

巻 頭 言

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 第 15 回学術大会にあたって

このたび、日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第 15 回学術大会を、2021 年 6 月 19 日(土)～20 日(日)までの 2 日間、東京・大田区「大田区民ホール・アプリコ」にて開催させていただくことになりました。私をはじめ、大学、病院といたしましても大変名誉なことと思っており、会員の皆様、役員、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

少子高齢化が進む我が国では、2010 年頃を境に人口減少局面に入っており、65 歳以上の高齢者数は 2040 年頃まで引き続き増加していくことが予測されています。こうした人口構造の不可避免な変化に対応するため、医療体制の大幅な見直しが進められ、中でも医療の質を下げずに費用を抑制することが可能なジェネリック医薬品・バイオシミラーの使用促進は、中心となる政策であると考えます。

こうした社会情勢の中、近年ではフォーミュラリー（使用ガイド付き医薬品集）の活用などを含め、疾病領域ごとに最も有効で経済的な医薬品使用について広く議論されています。薬効別や疾病別の標準薬物治療の推進に加え、ジェネリック医薬品・バイオシミラーの有効活用、医薬品購入費の削減なども考慮した薬剤使用指針の作成は、今後もその必要性が高まっていくものと考えます。しかしながら、厚生労働省が公表している調剤医療費の動向（令和元年度）を見てみると、薬効別の中でも後発医薬品割合が数量ベースで 50%を下回る疾病領域もあります。地域や病院・薬局の規模等により多少の差異はあるものの、現状シェアが低く、さらなる使用促進の必要な疾病領域においては、開発企業側では規制、特許、インフラ整備等の課題を解決する必要がありますが、医療現場では我が国独自の保険医療制度におけるインセンティブと、患者、医師の不安を払拭するための取り組み等が必要と思われます。

そこで、本学術大会では「ジェネリック医薬品・バイオシミラー製剤の明日を窺う—疾病領域ごとの展望—」をテーマに掲げ、様々な行政の動き、医薬品メーカーが持つ情報、および医療従事者が有する情報を共有し、さらなるジェネリック医薬品・バイオシミラーの使用促進に繋げたいと考えております。

ぜひとも多くの方々の積極的なご参加をお願い申し上げます。組織委員一同、心よりお待ちしております。

2020 年 12 月

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第 15 回学術大会

大会長 西 澤 健 司

(東邦大学医療センター大森病院薬剤部長)